

## ユビキタスネットワーク社会の到来

ネットワーク技術の急速な発展により、「ユビキタスネットワーク社会」が到来しようとしている。ユビキタスネットワーク社会では、至るところにネットワークが存在し、必要なサービスや製品がいつでもどこでも得られるようになる。本稿では、ユビキタスネットワーク社会におけるシステムインテグレーターの役割について述べる。

### ユビキタスネットワーク社会の到来

近年のネットワーク技術の進展は目覚ましい。それは、世界規模での通信の規制緩和や、インターネットの普及に後押しされながら、高速バックボーン回線、アクセス回線、LAN回線などのあらゆる部分において急速に進化を続けている。その進化の速さは、かつてコンピュータの技術革新の速度を象徴した「ムーアの法則」を上回り、12カ月で2倍の性能向上を示すほどである。

その一方で、ウェアラブルコンピューティングといった概念が、にわかに現実味を帯びてきた。PC（パソコン）は言うに及ばず、家電製品、家、車、カメラ、電子ペットなど、あらゆるものがネットワークを介して情報のやりとりをしようとしている。

この2つの流れから、近い将来、ユビキタスネットワーク社会と呼ばれる社会が到来する。「ユビキタス（ubiquitous）」とは、ラテン語で「同時に至るところに存在する」という意味である。すなわち、「ユビキタスネットワーク社会」とは、情報があらゆる場所、あらゆる層において利用可能な社会を指す。

ユビキタスネットワーク社会では、あらゆるものがネットワークと接続可能なノードと

なり、さまざまなリアルタイムフィードバックループの仕組みの中に組み込まれる。そして、そこでは今一部の先進的なインターネットユーザーが享受しているような利便を、すべての人が当たり前を受けられるようになる。

たとえば、朝起きて、買い物をしたいと思ったとする。それが洋服であれば、ほしいもののイメージを（PCかもしれないし、ノートに書くだけかもしれないが）何かに伝えるだけで、該当する商品と、最も安く手に入る店舗の情報が（テレビの画面かもしれないし、今かけている眼鏡に映し出されるのかもしれないが）リスト化される。リストからいくつかを選択して注文すればそれが翌日には届けられるし、試着も家に居ながら可能となる。

デジタルディバイドが社会問題となりつつあるが、情報技術の発展は恐らくそれを克服するであろう。今日、蛇口をひねれば誰でも水を得られるように、ユビキタスネットワーク社会では、ネットワークを通じて、必要なサービスや製品がいつでも、どこでも、何からでも「湯水のように」得られるのである。

### システムインテグレーターの役割

そのような社会において、システムインテ

---

---

グレーターの役割はどのように変化するのであろうか。

ユビキタスネットワーク社会とは、別の見方をすれば、これまで情報・通信産業が最終ユーザーに提供してきたもの（ハードウェア、ソフトウェア、通信）が、ただ同然になる社会である。現在でも、すでにフリーPC、フリーISP（インターネットサービスプロバイダー）などのように、ハードウェアや通信を無償提供し、その代わりにソリューションで対価を得ようとするビジネスモデルが現れてきている。

そのような状況の中で付加価値を提供するには、2つのやり方がある。

創知型.....ソリューションの部品となる新しい技術やサービスを、極めて高い専門性をもって創り出し続ける。

統知型.....顧客企業とともに、情報技術、通信ネットワークを駆使して新たなビジネスを創り出す。

システムインテグレーターの役割は後者の統知型になろう。しかし、その活躍の場は、情報システムを作り上げることに止まらない。ユビキタスネットワーク社会では、システムインテグレーターは、ビジネスを創り出すビジネスインテグレーターへと変容することになるのである。

ユビキタスネットワーク社会では、個々のコンポーネントを作り出す創知企業が、水平的な市場の中で新しい技術やサービスを作り

出す。ここには情報技術だけではなく、金融技術、ビジネスモデル、経営手法といったものまで含まれる。以下のような階層（レイヤー）内でベストの創知が競われるのである。

- ・マーケットレイヤー.....社会の動向を分析して戦略を立てるレイヤー
- ・ビジネスレイヤー.....戦略を事業に変換し、実際にこれを推進する事業主体のレイヤー
- ・システムレイヤー.....事業の実現を支援する情報システムの構築、運用を行うレイヤー
- ・インフラレイヤー.....全体を支えるネットワークや技術を提供するレイヤー

インテグレーターたるものの役割は、このレイヤーに縦の連携をもたらし、最終顧客への利便を創り出すことである。

未来を創る

発展し続ける情報技術、顧客企業の戦略・業務を結びつけ、新たな価値を生み出すシステムインテグレーターは、これまでも困難な知のインテグレーションという役割を担ってきた。今後も、21世紀の社会を創造する大きな動きの中で、システムインテグレーターが1つの核となり、夢のあるユビキタスネットワーク社会の実現に寄与していくことを期待したい。

（野村総合研究所

リサーチ・コンサルティング部門 椎野孝雄）